

ナシ新品種「恵水」の安定生産のための側枝育成方法

[要約]

「恵水」の若木期においては、骨格枝上の短果枝へジベレリンペースト剤を処理することにより新梢伸長が促進され、側枝候補枝を確保できる。ジベレリンペースト剤は、側枝を確保したい位置の短果枝へ処理し、発生した新梢を利用して側枝の育成を図る。

農業総合センター園芸研究所

平成25年度

成果
区分

技術情報

1. 背景・ねらい

茨城県生物工学研究所で育成したナシ新品種「恵水」は、9月上～下旬に収穫できる大玉で豊産性な高糖度の中生品種である。「恵水」は、短果枝の着生が良好で、結実の確保が容易であるという特性がある。反面、若木期における樹冠拡大の際には、骨格枝上の果そうが短果枝となり新梢伸長がしにくいため、側枝候補枝の確保が難しい。また、長果枝（えき花芽）の花芽着生が悪いことから、側枝の確保・育成が課題である。

そこで、「恵水」の安定生産のための側枝の育成・確保に関わる栽培法を明らかにする。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 骨格枝上の短果枝を開花前に摘らいし、満開 14 日後に短果枝の新梢基部にジベレリンペースト剤を処理すると（図 1）、新梢伸長停止期の新梢長及び基部径が増加する（表 1）。得られた新梢は、側枝候補枝として十分な長さであり、翌年の側枝として育成することができる。
- 2) 側枝を確保したい位置の短果枝を開花前に摘らいし、ジベレリンペースト剤を無処理の場合は、新梢が全く伸びず短果枝のままであるのに対し、満開 10 日後にジベレリンペースト剤を処理した短果枝では 100cm 以上の新梢長を確保でき、側枝候補枝として利用可能な充実した新梢が得られる（表 2）。得られた新梢は、翌年の側枝として育成することができる。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) 新梢伸長促進を目的としたジベレリンペーストの登録内容は、満開予定日 10 日前～満開 40 日後、新梢基部に 100mg/1 枝、1 回塗布である（平成 26 年 2 月 19 日現在）が、短果枝を摘らいし、満開 7～14 日後に処理すると効果が高い。
- 2) 「恵水」の短果枝は維持しやすいが、側枝枝齢の経過とともに側枝基部が太りやすく、樹形を乱す恐れがあるので、側枝は長年使用せず適宜更新を行う。
- 3) 骨格枝の真上から発生した新梢を利用する場合は、棚付け時に「背割り」するか、クサビを入れるなどの処理をし、強大化しないよう注意する。
- 4) 「恵水」の栽培方法については、平成 24 年度主要成果と「恵水」栽培マニュアルを参考にする。

4. 具体的データ



図1 「恵水」短果枝へのジベレリンペースト処理の様子
注) 摘らいを行い、短果枝の新梢基部にジベレリンペーストを塗布する。

表1 「恵水」短果枝へのジベレリンペースト剤処理の効果(平成23年度)

試験区	短果枝の向き	処理時(5/12)		新梢伸長停止期(8/3)	
		新梢長 (cm)	基部径 (mm)	新梢長 (cm)	基部径 (mm)
ジベレリン処理区	上～斜め上	1.6	6.2	78.7	12.2
	横～斜め下	1.3	6.1	51.1	10.5
無処理区	上～斜め上	1.9	6.2	21.5	7.8
	横～斜め下	1.3	5.6	1.9	5.9

- 1) 試験場所: 所内 供試樹: 「恵水」5年生 2樹
- 2) ジベレリン処理は5月12日(満開14日後)に実施
- 3) 摘らいを4月20日に実施、満開日は4月28日、対象果そうは特別弱い芽を除外

表2 「恵水」短果枝へのジベレリンペースト剤処理による新梢伸長効果(平成24年度)

試験区	短果枝の向き	休眠期新梢長(cm)	充実した新梢割合(%) ⁴⁾
ジベレリン処理区	上向き	113	67
	斜め上	117	83
	横	108	33
無処理区	上向き	2.9	0
	斜め上	3	0
	横	2.3	0

- 1) 試験場所: 所内 供試樹: 「恵水」6年生2樹
- 2) ジベレリン処理は5月8日(満開10日後)に処理 新梢長の調査は休眠期
- 3) 摘らいは4月21日に実施、満開日は4月28日
- 4) 充実した新梢は基部直径1cm以上の側枝として利用可能なもの

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

ナシ新品種「早水」及び「恵水」の高品質生産技術の開発・平成 23～25 年度・果樹研究室